

1. 参考資料

- ・「日本国勢図会」第62版、矢野恒太記念会、2004年
- ・「数字でみる日本の100年」改訂第4版、国勢社、2000年

2. 一次エネルギー供給量：(2002年度の姿) 資源エネルギー庁の統計

- ・石油49.7%、石炭19.5%、天然ガス13.5%、原子力発電11.6%で9割を占める。
これらのほとんどが輸入エネルギー（原子力を除いても輸入依存度は8割に達する）
- ・純国産のエネルギーは、水力発電3.2%、自然エネルギー（太陽、風力、バイオマスなど）0.2%、地熱エネルギー0.1%など少ない。コスト高、立地の限定など
- ・他に、廃棄物エネルギー（廃棄物発電など）や廃棄エネルギー（廃熱利用熱供給など）が各々1%強。
- ・エネルギー消費の部門別内訳は、産業部門47%、家庭部門13%、業務部門16%、運輸部門24%。

3. 主要エネルギーの変遷 石油のウェイトは70年代後半から低下傾向

- ・戦後、一次エネルギーの主力は石炭から石油に変わり、70年代には石油のウェイトが7割を越えていたしかし、石油への依存度は2度の石油危機を経て減少傾向を続けている。

	1955年	60年	65年	70年	75年	80年	85年	90年	95年	2000年
石油(%)	18	38	60	72	73	66	56	58	52	51
石炭(%)	47	41	27	20	16	17	19	17	17	18
水力(%)	27	16	11	6	5	5	5	4	4	3
熱量(55年の倍数)	1.0	1.6	2.6	5.0	5.7	6.2	6.3	7.6	8.4	8.8

- ・石油に代わってウェイトを高めたのは天然ガス（1970年シェア1.2%）と原子力発電（同0.3%）。石油危機など石油価格の大幅変動や供給不安の経験から、過度な石油依存の危険性が認識されたことによる。現在では、発電に占める原子力の割合が34.5%（電気事業用2002年）。
- ・国内の石炭産業は、戦後復興期に一時脚光を浴びた（「傾斜生産方式」などによる。戦後ピークの1961年には55百万トン生産）が、「エネルギーの流体革命」で衰退。主要炭鉱は2002年1月までに全て閉山。

4. 主な輸入先と埋蔵量

- ・わが国の原油の輸入は、中東産油国からが多い：原油の輸入依存度は99.7%（2002年）
2002年の原油輸入（2.36億kl）の国別内訳（日本関税協会調べ）は、サウジアラビア26%、アラブ首長国連邦24%、イラン12%、カタール10%、クウェート8%、オマーン5%、インドネシア4%等・・・中東を合計すると86%強
世界の原油輸入に占める日本の割合は10.4%（米国<25%>に次いで2位）、世界の原油消費に占める割合は6.0%（米国<23%>、中国<6%>に次いで3位）：いずれもIEA（国際エネルギー機関調べ）
- ・原油の埋蔵量は世界で2,012億kl確認（2003年）。うち、サウジアラビア20%、カタール14%（含むオイルサンド）、イラン10%、イラク9%、アラブ首長国連邦8%、クウェート8%、ベネズエラ6%、ロシア3%等・・・中東を合計すると57%強
可採年数（確認埋蔵量/生産量）は2003年には世界全体で50.9年：オイル・ガス・ジャーナル誌調べ
- ・わが国の石炭の輸入は、豪州など環太平洋諸国からが多い（2002暦年、通商白書ほか）
オーストラリア57%、中国18%、インドネシア12%、カタール6%、ロシア4%等：石油の輸入国とは殆ど重ならない
- ・石炭の埋蔵量は世界で5,119億トンを確認（1999年）。うち、米国22%、インド16%、中国12%、南アフリカ10%、ロシア9%、オーストラリア8%、カザフスタン6%、オランダ4%等：国連資料等による、石油とは異なる分布
可採年数（確認埋蔵量/生産量）は2000年には世界全体で150.9年：国連資料等による
- ・わが国の液化天然ガスの輸入は、東南アジア・豪州など環太平洋諸国からが多い（2002暦年、経産省）
LNG輸入の国別内訳は、インドネシア29%、マレーシア21%、オーストラリア14%、カタール12%、ブルネイ12%等
- ・天然ガスの埋蔵量は世界で172兆m³確認（2003年）。うち、ロシア28%、イラン16%、カタール15%、サウジアラビア4%、米国3%、アルジェリア3%、ナイジェリア3%等：オイル・ガス・ジャーナル誌調べ・・・中東を合計すると41%強
- ・ウランの埋蔵量は世界で318万トン確認（2001年）。うち、オーストラリア22%、カザフスタン19%、米国11%、カナダ10%など。